

「日吉歯科の存在は、歯の健康だけではなく、人生そのものにも、彩りを添えている」

最近友人とこんな話をしたことを思い出した。

歯って大切だよ

利用者さんが施設で暮らす中での、楽しみって食事なんだよね

お散歩だったり季節ごとの行事だったりあるけど時々だし、毎日の人生の楽しみって食べるときみたいなんだよ～

と介護福祉士の友人が言う。続けて介護施設で働く調理師が言う。

歯がないと食べられる物限られてくるし、食感を楽しむことできないし、見た目も難しいし、食のクオリティーは下がっちゃうね

誤嚥も怖いし..と。

高齢者の QOL を上げるには食のウエイトは大きくて、その為には歯が大切で、少しの専門的支援が必要なんだと話がまとまった。

作者の言うように、歯の健康を守り育てる日吉歯科は、人生そのものに彩りをそえているのだろうと非常に賛同した。

そして、その日吉歯科の一員であること誇りを感じた。しかし本を読み進み、恥ずかしい気持ちも抱いた。

本には、日常のことはもちろん、日吉歯科の歴史、院長の人生、思い、情熱、先輩衛生士の仕事ぶり等私が詳しく知らなかったことも書かれてあった。ふじ子先生と院長が共に教育の場と言う U20 の重要性、社会と歯科の関わり、企業との協力、予防歯科の全国への普及..作者の親しみやすい文章のおかげで本を読むことの少ない私でもストンと内容が入り、最初から最後まで面白く読んでしまった。作者の驚きと感動、探究心が伝わり、引き寄せられるものだった。これを読んだらきっと日吉歯科を訪れたくなるのだろうと思った。

また、やっぱり院長は偉大だな、歯科衛生士として出会えて良かった。日吉歯科に来たら皆こう思うのだとこの本でもわかった。

医療人としてここまでやりがいのある素敵な職場はない。いや、健康を求める者として、人として。そう思っている。

最後に、整えられた環境にぼんっと入ってきた自分、日吉歯科の36年の歴史を、苦悩を、重みを、充分に分かっていたのだろうかと思わずかしくなった。

歴史を知った上で培ってきたものを守り育て、未来を見据え今を働きたい。